

何事も目的を持ってやった方が最後まで続くと思う

んよ。好きなことやると一緒かな

語り手 砂川昊輝（高校十七期生 情報理工学部）

聞き手 津田大輝

*

—今日はよろしくお願いします。

こちらこそお願いします。

—めっちゃ緊張してるんで、全然質問とか脱線してもらって大丈夫です。その方が助かります。

はははは。

*

探究活動

全然そんな緊張しなくても大丈夫ですよ。いきなりなんやけどさ、探究ってなにやってるん。

—アレルギーのことについてやっていて、アレルギーの人って食事とか結構制限されたりするじゃないですか。だからその人たちのための、小麦と乳製品と卵を使わないピザを作ろうと思ってやってるところですね。

いいですね。

—自己紹介のところに探究のこと書かれていたんですけど、具体的にどのような探究を行なっていたんですか？

どこら辺まで知ってるん？

—本当に自分なにも知らされてなくて、印象に残っているのが探究だったってことぐらいしか。

あ、そうなんですね。えっとね、二年は、アプリの開発をして、ちようどたまたまクラスが同じ子がいて、連携はとりやすかったですね。でも、最終的に、ストアとかに配信はできひんかったな。

—二年の内容をそのまま三年に引き継いだ感じですか。

いや、一応、活かしたいなとは思ってたんやけど、結局、別のジャンルにしちゃったな。二年の時は、『スマホ依存症のための通知アプリを作ろう』みたいなんで、作るだけ作ったけど、完成度は低かった感じかな。一応使える形までして、自分のスマホとかには入れたりはしてみたけど、配信は特にはしなかったね。自分たちにはハードルが高かったのと、その年にちようど配信の基準が上がっちゃって簡単に配信できひんくなったんよね。

—三年生の探究はどうだったんですか。

三年生の時は、AIとかに活用されている機械学習っていう手法を用いて、株価の上がり下がり进行予測するプログラムを作る活動をしてましたね。

—自己紹介のところにもAIに興味があると書かれていたんですけど、興味を持つようになったきっかけとかあるんですか。

きっかけとしては、チャットGPTとかが流行ってたりとか、元々プログラミングが好きで、自分たちやったらどうなのが作れるのかなって考えていたときに、AIに使われているシステムとかでも、自分たちで再現できるんじゃないかって思ったのがきっかけかな。高校生やし全然失敗してもいいから思いっきりやろうてのはあったかな。

—普段とかチャットGPTとか使ってますか。

結構使ってますね。今ないと結構しんどい気がするな。

―自分も結構使います。無いと厳しいですよ。

今振り返ってみるとちよつと難易度高すぎたのはあるかな。でも全然苦じゃなかったし、いい経験になったと思うよ。

―自分も今、探究活動、結構困っているんですよ。今は、実験とかしてデータ集められてるんですけど、最終的なゴールが曖昧で、どうしようかって困ってるんですよ。

まじでわかる。多分半分くらいの方がそういう感じで困るんじゃないかな。

―先生は実験とかは数値がとれた方がいいよみたいなアドバイスくれるんですけど、最終的なゴールはあんまり教えてくれなくて、どうしたらいいのかなって困ってるんですよ。どうしたらいいと思いますか。

なんていうんやろ。完成度の高い発表とかにしたいんやったら、しっかりゴールは決めといた方がいいのかなって思うかな。そっちの方が最後、綺麗なまとめ方もできるし、教授たちも結構褒めてくれると思うな。あーでも難しいな（笑）。でも、データさえ取っておけば最後はなんとかなるかな。

―最終的な発表って教授たちの前でやるんですよ。

そうやで。

―えー嫌やなあ（笑）。質問攻めとかされそうで怖い。

いやそんなに攻められないと思うよ。教授にもよるけど、その専門の教授とかだったら詳しく聞いてきたりもするかもしれないね。

―攻められたりしましたか。

いや僕たちの時はそんなに攻められへんかったかな。マニアックつてもあったやろうけど。そんな、「ここのデータ間違ってるんじゃない

の！」みたいなのはなかったかな。

―先輩たちは最終的なゴールはどうされたんですか。

自分たちはプログラムを完成させるってことに手一杯になっちゃって、結局、中途半端になっちゃったんよね。本来は作ることが目標やってんだけど、作ることって意外と簡単じゃないってなって、具体的な数値に着目したときにモデルを改善できるんじゃないってとこまで発見したかな。ちよつと曖昧やけど（笑）。だから、別にゴールはどんな形でも大丈夫と思うで。

*

大学生活

―そうなんですね。まだ大学一回生だと思うんですけど、探究でやったことって大学でも生きているんですか。

探究でやったことめっちゃ大学でも生きているんよね。

―本当ですか！

そうそう。僕は情報理工学部っていう情報系の学部やから、やっていたことはドンピシャやったね。今やつてることをそのまま大学でも活かせたらいいよねっていう目的で集まったメンツやったし、それで探究のテーマ決めたつてもあるんやけどね。探究の時は、ちよつと専門的なことやつてたから、大学で先生が言っていることも、「あーあれね。あれね」って感じで理解はしやすかったな。

―自分、情報理工学部に行きたいんですよ。でも、二年の時も三年の探究でも全然情報に関係ないテーマにしちゃってるんで、やっとなら良かったかなっていう後悔が少しあるんですよ。

でも、全然大学入ってから勉強する機会あるし、半分以上は情報初心者の子が集まってるから、別にそんな気にしなくてもいいと思うよ。

追いつけないってことはないな。まあでも、やっといたらちよつと有利ですよぐらいの感覚かな。

—そうなんですね。大学入ってからが大事みたいな感じですね。そうそう。

—情報理工学部って入学してからコース決めると思うんですけど今ってどこら辺の段階なんですか。

今はちよつと申請して結果待つてるところかな。

—AI関係だったらやっぱり知能情報コースですか。

いや自分は結局ね、セキュリティ系にしたんよね。コースの申請を出す前に、研究室の見学とか色々できる機会があつて、その時に色々見た結果、自分はセキュリティ系にしたんよね。今所属している団体もセキュリティ系の団体やからそれも結構大きい理由かな。

—団体っていうのはサークル的な感じの集まりなんですか。

—そうそうそう。実はセキュリティ系の大会なんかもあるんよね。

—どんな感じの大会なんですか。

ほんまにゲーム感覚でやるやつなんよね。セキュリティの不具合だったり、人のミスだったりを発見して答えをゲットするみたいな大会があつて、それに参加しようかなって感じですね。元々、運動系のサークルにしようかなって思つてたんやけど、「会費高いくない?」ってなつて諦めたんよね。

—そうなんですね。自分バトミントンやつてて、スポーツ系のサークルにしようかなって思つてたんですけど考えさせられますね。

—はははは。

*

附属校生として

—ちよつと話変わるんですけど、附属校生で良かったなって思えたことつてありますか。

附属校生でよかったことか。それこそさつき言つてた探究とかの活動もそうやし、英語の授業とか、結構いろんなこと役に立つてるなつていう実感はあるかな。

—そうなんですね。

—そうそう。でも一番役に立つてるなつて思うのはプレゼンかな。

—確かに立守プレゼンする機会多いですよ。

—そうなんよ。それがめっちゃ役に立つてるな。あとパワポ作るのもそうやな。普通の高校生とかやつたら、あんまり経験しないようなことやつてから、そこは周りという意味で差を感じるかな。

—プレゼンできるのいいですよ。

—ほんまにそうなんよ。プレゼンの時めっちゃイキれるんよね。立宇治とかの生徒とか見ててもやつぱプレゼンは上手いね。

—もしも自分が高三の夏休み戻るならなにしますか。

—そやな、ひたすら英語やるかな。自分英語苦手なのはわかつてたんやけど、ちよつとしかやつてなくて、結局入学前の休みに詰め込む感じになつちやたな。

—文法とか単語とかですか。

—そうやね、一日三十分とか、いや、十分でもいいからやつておけばよかったなつて思うな。

—グローバルコースの子たちって英語のレベルがめっちゃ高くて本当に自分嫌なんですよ。

—わかるわ、その気持ち。自分も英語できない方やったからさ。ほんと皆んなすごいよね。肩身狭くなるわ。

―しかも自分アカデメイアコースから上がってきてるから、余計それを実感するんですよ。

僕はもう英語以外で頑張ってた記憶あるな。

―英検とか取ってたんですか。

いや、英検は中三の時に取った準二級で止まってるな。

―そうなんですね。自分は今度英検受けるんで、今日も朝の電車で単語帳やってたんですよ。

単語帳ね。単語大事やな。文法とかって詰め込んだらなんともなるけど、単語は知ってるか知ってないかやからね。単語はやるべきやと思う。

―やっぱそうですよね。

うん。学部はもう出した感じなの。

―一応、仮で出した感じですね。

あ、もうそんな時期か。第一は情理？

―そうですね、第一が情理で、第二は理工で出しました。

もしあれやったらいつでも連絡してね。過去問とか全然あげるから。

―いいんですか。めっちゃ助かります。

なんか大学のことで気になることとかない？ 授業のこととか。

―そうですね。やっぱ大学の授業の雰囲気って高校とは全然違いますか。

あー全然違うね。なんていうんやろ、そもそも形式が全然違うっていうか。授業途中で抜ける人とかも全然いるし、途中から来る人とかも。

その点に関しては高校とは全然違うかな。

―自由度が違う感じですね。

そうそう。もう勉強は自己責任でって感じやね。高校って、ある程度

先生がサポートしてくれるじゃないですか。それがなくなったのは大きいですね。

―数学の先生もよく授業で、「大学は自分で勉強しなあかんから、教科書読む癖つけろよ」ってよく言ってますね。

本当にそうなんよ。授業だけじゃ絶対に足りひんし、自分で勉強するってのが本当に大事ななんよ。あとは、内部の子以外で友達作るのも大切やな。

―内部の子以外ですか。

そうそう。そういった子って、勉強わからへんくて放課後とか残って勉強したら話しかけてくれるんよ。そういった子との繋がり はめっちゃ大切な。

―外部から来てる子ですごい子とかいないんですか。

全然いっぱいいるよ。神大とか阪大とかの滑り止めで来てる子とかもザラにいるね。

―うわあ。大学行っても肩身狭くなるんか（笑）。

はははは。別にそんなことないよ。全然上手くやっていけるから。立命館くる子って優しいし常識ある子やからさ。そんなに心配する必要はないよ。大体なんともなるから大丈夫だと思うよ。大学の授業来てればなんともなるから。でもね意外とみんな授業来ないのよ。

―え、そうなんですか。びっくり。

そうなのよ。人にもよるんだけど、僕の見てる限り、外部の子よりも内部の子の方が授業の出席率はいいかな。なんでか知らないけど

（笑）。

*

課外活動

—少し話変わるんですけど、学校外でも活動とかって何かされていたんですか。

色々やってたな。ビジネスコンテストで商品作って売ったりとかもしたね。写真あったかな。あったあった。(写真を見せながら) これは、自分たちが作ったふりかけをカナリア保育園で食べてもらっている様子ですね。

—ふりかけ作ってたんですか。あ、僕の先輩でもやってる人いました。水野さんですね。

あー水野ね。一緒にやってた、やってた。懐かしいな。

—他にはなんかやってなかったんですか。

他か。模擬国連とかも参加してたな。でもあれは他の学校にボコボコにされた記憶があるな。なんでこんなとこに灘がいるねんみたいな。

—ははは。模擬国連って全部英語でやるやつですよ。

そうなんやけど、自分の時は初回やったから、初心者向けの全部日本語でやるみたいな感じやったな。それでも酷かったけどね(笑)。

—でもこういうのって普通の高校じゃなかなか体験できないですよ。いやそれは本当にそうなんよ。マジでこれが立守のいいところやと思う。こういう体験も今思えば貴重やったなって思うな。あつ、探究の時の資料出てきた。

—本当ですか！

えっとね、これがその時の写真やな。(探究の資料を指しながら)。このグラフは株価のグラフなんやけど、オレンジのグラフが実際の株価の動きで、青のグラフが自分たちが予測したグラフやな。これは多分失敗した時のグラフやな(笑)。あとは、コード書いた時のやつもあるな。なんのコード書いてるかわかるようにメモしてるやつやな。

—こんなに細かくやってるんですね。

そうそう。結構大変やったなあ。選択の授業とかでゲーム作ったりしてるの。

—自分、情報選択したんで、ちょうどゲーム作ってるところですよ。あれめっちゃ面白いですよね。

あつ、あれ面白いと思えてるなら情理、大丈夫やで。

—あの授業めっちゃ面白くて、どうせやるなら自分の楽しいと思えることやりたいなって思ってたんですよね。

その選択めっちゃいいと思う。情理行ってる子も、その授業とって面白くなって行ってる子結構いるんよね。その授業で、いやいややってるなら情理厳しいかもやけど、楽しいと思えてるなら全然大丈夫やで。

—砂川さんもその授業とってたんですか。

やってたよ。

—どんな感じのゲーム作ってたんですか。バンバン凄いのとか作ってたんですけど。

そんな自分で凄いなって言えへんけど、まあ操作に困ることはなかったかな。二年の時にやってた探究がさユニティ使ってた、それもあると思う。

—やつば自分が楽しいと思える方に進んだ方がいいと思いますか。

それは絶対にそうやと思う。大学行ってから何人か後悔してる人見かけるもん。なんで情理きたんやろ、みたいな(笑)。

—やつば楽しいと思える方が続きますもんね。

そうそう。

—でも自分は今、「楽しい」という気持ちだけで情理目指してる感じ

なんですけど、その先をなんも考えてなく、先輩は何か考えているんですか。

まだざっくりしか考えてないねんけど、そのまま立命館の院に行くか、他の大学の院に行こうかなって考えているかな。それで、セキュリティ系の研究進めて、最終的にはインフラ系の仕事に就きたいかなって感じやね。一般の企業に就職するか、なんか今理系の公務員があるみたいでそれも興味あるね。

—まだ一回生なのにそこまでしつかり自分の将来のこと考えられていて凄いな。やっぱ院って行くべきなんですかね。院って研究のイメージがあるんですけど。

個人的には、二年間勉強する猶予が増えると思ってるんよね。四回生で学部卒として一般企業に就職しても全然いいんだけど、OBとかの話を聞いてると、院卒の方がいいのかなって。情報理工学部って、四年間勉強したからといって、めっちゃくちや実力がついてるって訳じゃないんよね。もちろんついてる人はついてるんやけどね。別に全然文系の人でも、独学で情報勉強してシステムエンジニアとかプログラマーとかになれるから、同じ扱いをされる場合があるのね。でも、院進学したらもっと専門的なこと学べるからいいのかなって。

—なるほど。より専門的知識をつけたいなら院進学もありなんか。

そうそう。あと研究の期間も違って、学部卒なら研究の期間なんて半年ぐらいしかないし、質の高い研究とかができなかったりするから、そこも考えてるかな。あと、将来もっとAIが発達してきて、自分はやっていけるのだろうかという不安はあるね。

—今の院進学を選択もそうなんですけど、情理のコースの選択であったり、学部を選択って結構人生を大きく変えると思うんですけど、そういう

選択をする時に意識していることとかあるんですか。

えー、なんだろう。やっぱその時の直感じゃないかな(笑)。情理のコースは、別に正直そこまで人生に大きく影響することはないと思うんですよ。コースが違っても、学ぶことなんて誤差やし、このコース行ったらって受けられない企業が出てくるとかはないから、コースに関しては直感でもいいのかなって思ってる。でも確かに院進学は長く考えた方がいいのかなって思いますね。あとは、目的は明確に持った方がいいですね。

—目的ですか。

そうそう。何事も目的を持ってやった方が最後まで続くと思うんですよ。好きなことやると一緒かな。だから目的は大切にされた方がいいと思う。

—目的か。難しいな。こういうのって大学入ってから決めてもいいと思いますか。

全然大学入ってからでも遅くないと思うよ。自分が頑張ってる勉強してるのは、高校の時の探究が影響してて、二年の時に必死に勉強してたことが三年になったらAIが進化して一瞬でできるようになってる、みたいなことがあって、だから勉強してるかなって感じやね。

*

進路選択

—あと自分、聞きたいことあって、今夏休みで、ちょうど志望理由書を仮で出すタイミングなんですけど、自分は情報の授業が「楽しい」っていう気持ちだけで情理を選んだんです。けど、本当にそんな理由で先生たちは納得してくれるのだろうかって疑問に思ってるんですよ。先輩はなんて書いたか覚えていますか。

自分、なに書いたやろか。確か、探究とかの経験を絡めて言ってたかな。そこで、探究とかで色々知識とかついたと思ってるけど、実際はまだそんなことないから、大学にいつて教授とかと関わって、より高度な知識を身につけたいと思ったから目指しました、みたいなことを書いた気がするな（笑）。

—探究のこと書けるの強いですね。自分は全然情報に関係ないことやってるから書けなくて。

でもやっぱ気持ち大事やね。あとは、こういう経験があつたから、大学ではこういうことが学びたいってのも書いたかな。

—そうなんですね。また頑張つて書きます！

頑張つて。また連絡しれくれたら相談乗るから。めっちゃ話変わるねんけどさ、今年劇なにやるの。

—今年は、自分たちのクラスは、インサイド・ヘッドやりますね。

インサイド・ヘッドやるんや。いいね。

—先輩たちはなにやったんですか。

ズートピアやったね。めっちゃめっちゃ忙しくてさ。

—自分も広報担当なんですけど、めっちゃくちゃ忙しくて。これ見て欲しいです。（自分が作ったパンフレット見せる）。

すごー！

—これ製作時間五十時間くらいかかったんですよ。

いやクオリティ高すぎでしょ。怒りの目の感じも完璧やし。絵とかなんも習ってないんですよ。

—特にはやってないですね。でもアイビスペイントだったら、なぞり描きとかもできるんで。でも使い方全然わからなかったんで、友達に聞いたり調べたりしてたら五十時間もかかっちゃいました。

美術部じゃないのに頑張ってるの珍しいな。

—広報に美術部いないんですよ。

ははは。それは厳しいな。自分たちの時はいたからな。

—先輩はどんな仕事されてたんですか。生徒会だったらやっぱ忙しかったですか。

三年の時はクラスメインで持ってたからそこまででもなかったかな。二年の時は生徒会が忙しかったの覚えてるな。

—でも、こうやって忙しいって言ってられるのも最後やからな。楽しまないと。

—そうやで、大学生になったらこんなことできひんから。思い出は作っておかないと。

—そうですよね。できる時にやっておかないとですよ。勉強も青春も。

本当にそうやで。後悔のないように過ごしてね。

—ありがとうございます。今日は一日ありがとうございます。

（次ページへ）

【感想】

先輩の話を聞いて、探究での多様な挑戦（アプリ開発や株価予測の機械学習、ふりかけ販売や模擬国連、セキュリティ活動）が大学生活や進路に直結していることがよく伝わりました。チャットGPTの活用やプレゼン経験、目標設定の重要性、英語や志望理由書の具体的アドバイスまで、実践的で親身な助言が多く、不安が和らぎ前向きになりました。

左：語り手 砂川晃輝さん 右：聞き手 津田大輝

